



インコの独占インタビュー

10・6東京地裁裁判員裁判候補者Aさんの激白 第2回

明らかになった東京地裁の醜態…そのすべて



10月20日、インコはAさんに独占インタビューを敢行！

裁判員候補者は東京地裁に呼び出された中で、何を思い、何を見たのか？！そこから浮かび上がる問題
明かされた東京地裁の驚くべき醜態。前回に引き続きAさんは語る

-選任手続きに入る前に何かセレモニーはあるのですか。
裁判長、検察官、弁護人がそろってあいさつにまわりました。

発言したのは裁判長だけでした。検察官はにこりともしなかったですが、弁護人はニコニコしていました。

-選任手続きでは、全員が裁判長面接を受けるのですか。

いいえ、5人だったと思います。「選ばれたら困る理由がある」と表明した人たちだけです。台風が来るので農作物が心配とか、どうしても抜けられない会議があるとか言った人だけで、全員に面接しないなんて意味がないと思いました。

-その人たちは選ばれずに帰ったのですか。

そうです。でも、地裁の人は「次回も来てもらいます」と言っていました。次の裁判では台風もないし、会議も終わっているでしょうということで、優先的に呼び出すような言い方でした。それなら理由を言わずに黙ってくじで外れたほうがまし、と思いました。

-でも、裁判員法では優先的に呼び出すというようなことは決まっていないのですが。

嫌みの一つも言わないと、タダでは帰さないということなんでしょうか。ほんとうに感じが悪い。

-Aさんもくじで外れたのですか。

はい、でも、くじと言ってもどういうことになっているのかわからないので、本当にくじ引きなのかどうなのか。

選ばれたのは若い女性ばかりだったので、裁判長が与しやすいと思って選んだのかなと感じました。

-選任手続きが終わった後は。

希望者は裁判所内を見学できるのです。

-裁判所の見学って。

裁判員裁判用の法廷です。法服も着せてくれるし、裁判長の席に座ってもよい。記念撮影している人もいました。

-えっ？写真もOKなんですか。

ええ、携帯、写メですけどね。モニターなんかも操作してみせてくれました。

-法廷を見てどう感じましたか。

裁判員の座る席が裁判官と同じで、ものすごく高いところにあるんです。あれでは勘違いする人も出てきます。いえ、たいていの人は偉そうな物言いになるのではないのでしょうか。

-嵐山光三郎さんは、一日警察署長を務めたとき、「せっかくだからだれか捕まえてみたいという気持ちになった」と書かれていましたが。

わかります。初めて握った権力を行使してみたくするのは。そういう気持ちにさせる構造にあの法廷はなっています。素人が勘違いしたとき、どうなるのか、とても恐ろしく感じました。

(次号に続く)

10月27日東京地裁立川支部裁判員裁判抗議行動！

人通りがない。ほとんどない。でもたまに通る人たちの大多数はインコたちにエールをくれたよ！
中には、インコの手を握って「頑張って」という人や「ありがとう」という人も！



さて←写真は神妙なインコと武内更一弁護士
ふたりは何を話しているのか？
もしかしてインコの耳に説教？

インコ君、人が通らないからと言って、いい加減な気持ちで取り組まないでね。それに今日も二日酔いかい？クチバシの周りが赤いよ。

それともインコと意味深会話か？

イ 責任取ってくださる？

武 今更、そんなこと言われても・・・

みんな、はずれ～ 本当は↓

カメラマン「インコってどう撮ったって、あんまりかわいくない」

武内「いや、ちょっとうつむき加減がかわいいよ……それっ、うつむきすぎ」



空、青いですね
うん、青いね
だれも通らないですね
うん、通らないね
裁判所に演説って
むなしくないですか
.....